

CASE4

串本海域学生環境サミット



実施報告書



2011.9.6(火)～9.12(月)
於 和歌山県東牟婁郡串本町
串本沿岸海域およびその流域

主催：CASE4 串本海域学生環境サミット実行委員会
共催：特定非営利活動法人 日本エコロジスト支援協会

～目次～

◆CASE4串本海域学生環境サミットを終えて	1 p
◆企画の背景とコンセプト	2 p
◆CASE概要	3 p
◆今後の展開	4 p
◆実施概要	5～6 p
◆実行委員協力リスト	7 p
◆フィールド概略	8 p
◆サイン掲示結果	9～11 p
◆広報	12～13 p
◆プログラム実施概要	14 p
◆記録写真	15 ～ 30 p
◆プレゼンテーション概略	31 ～ 33 p
◆CASEの今後の活動	34 p
◆会計報告	35 p

～CASE4串本海域学生環境サミットを終えて～



学生実行委員長
法政大学 人間環境学部 2年

金杉 和也

まず、このたびの台風12号及び15号の被害にあわれました皆様にお見舞いを申し上げます。

2011年9月12日をもちましてCASE4串本海域学生環境サミットが無事閉会いたしましたことを非常にうれしく思います。

共催のNPO法人日本エコロジスト支援協会をはじめ、後援・協賛・助成・地域の方、関係者各位のご理解とご協力に実行委員会を代表しまして御礼申し上げます。皆様のご支援のもと、今年もサミットをさせて頂くことができました。実行委員会、参加者共に学生にとって貴重な機会になったことと思います。

CASE4串本海域学生環境サミットは学生にとって地域の方々や課題に直接触れる機会と、それを解決するために議論し発表するという一連の場を創出する点に意義があると考えています。

今回の開催地である和歌山県串本町は豊かなサンゴの海を有していますが、近年の海水温上昇によってサンゴ間の勢力図が変わりつつあります。このような自然の変化のダイナミズムは現場を見た者でないと味わうことができません。

そういった環境の中で様々な大学や専門、学年の異なる背景をもった学生が集まり合宿型のイベントをすることで、普段の学生生活とは違った経験を味わってもらい、そこで得た気持ちを持ち続けて各人が活動していってもらえればと思います。

また、地域の方々からは様々なご意見を頂きました。中には「同じ地域の精力的な環境活動家と知り合えることができた。」というお声もあり、交流会で学生と地域の方々だけでなく、地域間での横のつながる場もある程度創出できたのではないかと手ごたえを感じました。もちろんお褒めのお言葉はありがたく頂きさらなる原動力へ、ご指摘は真摯に受け止め活動の質の向上に努めていき、より良い活動にしていけるよう邁進していきます。

本サミットから嬉しい動きがありました。有志の参加者が今後も継続的に串本で活動すべく、会議・検討するグループの発足です。

このように来年度もサミット終了後も地域と関わり続ける動きを作り出したいと思います。

最後に、CASE4串本海域学生環境サミットに関わって下さった全ての方に重ねて感謝申し上げます。学生の力だけではとても開催することはできませんでした。本当にありがとうございました。

～企画の背景とコンセプト～

地球規模の環境問題の顕在化

地球温暖化、環境汚染、生物多様性の減少etc...

明日を担う学生層への期待感

2008年9月

CASE1クッチャロ湖学生環境サミット開催

2009年9月

CASE2三方五湖学生環境サミット開催

2010年9月

CASE3藤前干潟学生環境サミット開催

温暖化が可視化する
世界最北の串本町のサンゴ海

和歌山県にて植樹祭の開催
環境問題への関心の向上

2011年9月

CASE4串本海域学生環境サミット開催

人類共通のテーマ
「人と地球の付き合い方」を、
ミクロ の視点で考える
環境サミット。



地域の課題・現状・活動の中から
環境問題の縮図が見える。

CASEとは



2008年に設立された学生が主体となって環境に様々な角度からアプローチしてゆく団体です。毎年ラムサール条約登録湿地等の自然保護地域の現地において「人と地球の付き合い方」をテーマに「学生環境サミット」を開催しています。

団体名であるCASEは

「Conservation Activity for Sustainable Environment」の略称で、「持続可能な環境のために向けての保全活動を実践してゆく」という意味が込められています。

2008年にはCASE1として北海道浜頓別町にあるクッチャロ湖にてクッチャロ湖学生環境サミットを開催し、プレゼンテーションで大賞を受賞した「はまもん魅力発見プロジェクト」が2009年、2010年、2011年8月に実現に至りました。

2009年にはCASE2として福井県美浜町・若狭町にまたがる三方五湖にて、2010年にはCASE3として愛知県名古屋市の藤前干潟とその流域にて、学生環境サミットを開催しました。

CASEがラムサール条約登録湿地で

「学生環境サミット」を行う理由

わが国の多様な自然環境の中でも湿地は「生命のゆりかご」とも呼ばれ、生物の多様性を保全するために重要な役割を果していると考えられています。

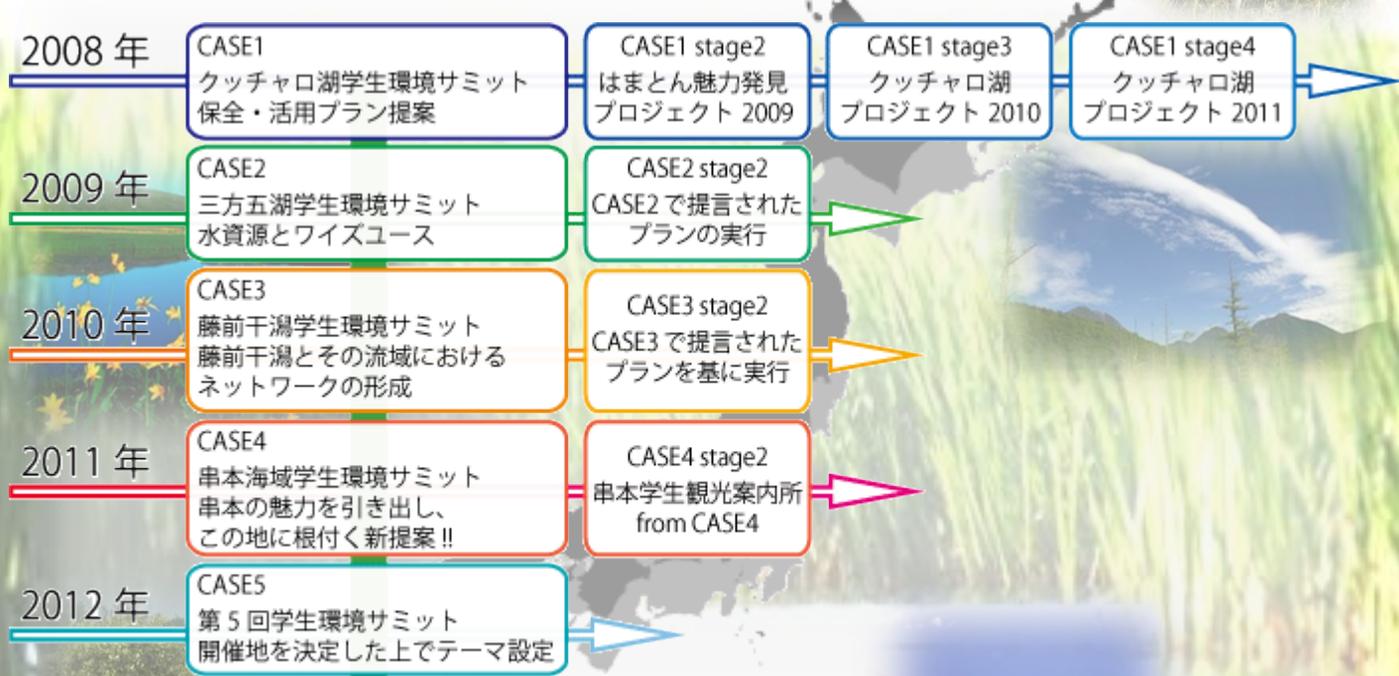
しかし、干拓や埋め立て、汚染、湿地資源の過剰利用の進行等によってその環境は改変あるいは場合によっては失われている現状にあります。

そこで、CASEは以下の3つを目的にラムサール条約登録湿地でサミットを行っています。

- ①湿地の重要性の理解および湿地の保全の促進
- ②ラムサール条約の基本原則である『賢明な利用(Wise Use)』の推進
- ③毎年開催地を替えながらサミットを行うことで、湿地同士のネットワークを形成

湿地のネットワーク形成・ブランド化を目指して。

毎年ラムサール条約登録湿地を巡りサミットを開催。
ラムサール湿地をめぐることにより、湿地同士のネットワーク化を狙います。
ゆくゆくはラムサール条約及びサミットがブランド化し、
誘致活動が起こるほどに影響力のあるイベントへの成長を目指します。



CASE1プレゼン大会大賞プランが
学生の力によって実現中



CASE1 stage4 ~2011年8月実施~ クッチャロ湖プロジェクト

クッチャロ湖のある北海道浜頓別町の活性化に向け、
継続性と発信性を理念にグリーンツーリズムを行いました。
詳しくはホームページを参照下さい。
URL:http://www.geocities.jp/hamaton_2010/



～実施概要～

- 名 称：CASE4 串本海域学生環境サミット
- 会 場：和歌山県東牟婁郡串本町 串本沿岸海域
- 開 催 期 間：2011年9月6日(火)～9月12日(月)
- 主 催：CASE4串本海域学生環境サミット実行委員会
- 共 催：特定非営利活動法人 日本エコロジスト支援協会
- 後 援：農林水産省
環境省近畿地方環境事務所
和歌山県
和歌山県東牟婁郡串本町
- 協 賛：大同特殊鋼株式会社
株式会社大同ライフサービス
株式会社ライフサポート
大同興業株式会社
株式会社丸井グループ
- 助 成：公益財団法人 日本財団
- 参 加 対 象：本企画のテーマに関する研究・ボランティアに取り組む
学生の個人またはグループ
- 参 加 費：25,000円

開催地

和歌山県東牟婁郡串本町 串本沿岸海域
(滞在先: 和歌山県立潮岬青少年の家)
プレゼンテーション大会開催会場: 串本町文化センター 大ホール

テーマ

「串本の魅力を引き出し、この地に根付く新提案!!」

目的

- ①環境問題を抱えている地域において、学生が実際に環境問題を学べる場と機会の創出
- ②大学で学んでいることと、地域の現地で学んだことを活かして環境問題を解決するための行動を起こせる場と機会の創出
- ③学生と地域の住民の方が交流することで、また学生が行動を起こすことで、地域の住民の方の環境に対する意識を高め、具体的に改善してゆく場と機会の創出

プログラム

グループごとにエコツアーや人々との交流を通じて発見し、得た情報を基に、串本海域の保全と活用プランをまとめ上げ、最終的に地域の方々にプレゼンテーションを行います。

9月6日(火)	開会式、ガイダンス、ワークショップ、交流会
9月7・8日(水・木)	フィールドワーク、グループディスカッション
9月9日(金)	現地調査、台風被害復旧ボランティア活動、プレゼンテーション準備
9月10日(土)	プレゼンテーション準備
9月11日(日)	プレゼンテーション大会、閉会式、懇親会
9月12日(月)	解散

～実行委員・協力リスト～

学生実行委員

- 委員長：金杉 和也（法政大学 人間環境学部 人間環境学科 2年）
副委員長：稲葉 亮介（日本大学 生物資源科学部 応用生物科学科 3年）
今井 創（東京農業大学 国際食料情報学部 国際農業開発学科 3年）
実行委員：江端 一徳（豊田工業専門高等学校 専攻科 建築工学専攻 2年）
川村 一弘（日本大学 生物資源科学部 植物資源科学科 3年）
北薊 道子（慶応義塾大学 商学部 商学科 3年）
北出 真（大同大学 工学部 都市環境デザイン学科 3年）
坂庭 采佳（日本獣医生命科学大学 応用生命科学部 食品科学科 3年）
鳥巢 勇二（豊田工業専門高等学校 環境都市工学科 5年）
平田 太良（東京農業大学大学院 農学研究科 造園学専攻 修士課程 2年）
松田 弘一郎（法政大学 人間環境学部 人間環境学科 1年）
宮原 麻美（東京農業大学 応用生物科学部 応用生命化学科 4年）

組織委員

- ・伊藤俊哉(住友林業緑化株式会社)
- ・北村秀行(レッドキューブ株式会社)
- ・原口真(株式会社インターリスク総研)

特別協力

- ・エコアセット・コンソーシアム
- ・レッドキューブ株式会社

協力

- ・大東憲二(大同大学 工学部 都市環境デザイン学科 教授
特定非営利活動法人 日本エコロジスト支援協会 理事)
- ・栗田和也(東京農業大学 地域環境科学部 造園科学科 自然環境保全学 専任講師
特定非営利活動法人 日本エコロジスト支援協会 副理事長)
- ・藤永博(和歌山大学 経済学部 ビジネスマネジメント学科 准教授)
- ・前芝雅嗣(和歌山県議会議員)
- ・揚妻直樹(北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター 和歌山研究林 林長)
- ・堀口一志(特定非営利活動法人ガイアライン 理事)
- ・舩岡功(串本・みんなの海をまもろう会 副会長)
- ・堀口徳弘(串本町役場産業振興課 課長)
- ・芝崎晴也(串本町役場産業振興課 主査)
- ・串本町商工会
- ・串本町観光協会
- ・和歌山県東漁業協同組合
- ・株式会社串本海中公園センター
- ・南紀串本リゾート大島
- ・特定非営利活動法人 潮岬おもしろらんど体験学習推進協議会
- ・特定非営利活動法人 海と自然の体験学習協会

(順不同・敬称略)

～フィールド概要(訪問先及びボランティア活動の位置)～



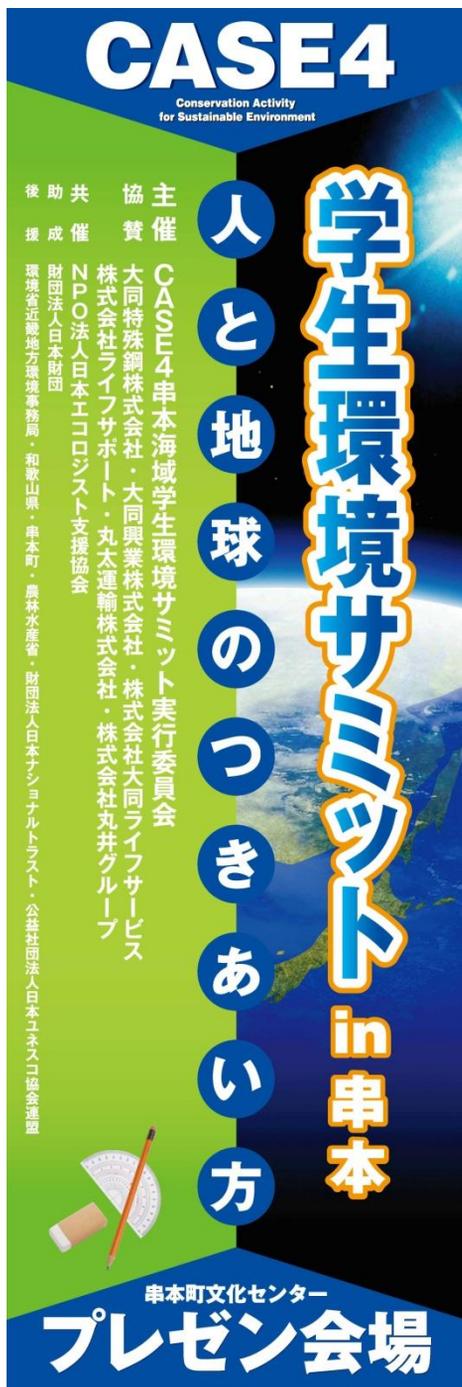
出典:国土交通省
国土政策局 国土数値情報
国土地理院 基盤地図情報

プレゼン会場立て看板

制作数:1個

掲示場所:プレゼン会場(串本町文化センター)

掲示期間:9月11日(日)



h1800 × w500(mm)

～サイン掲示結果②～

ポスター

制作数:100枚

掲示場所:串本町文化センター

その他関連機関へ配布

掲示期間:9月6日(火)～9月11日(日)

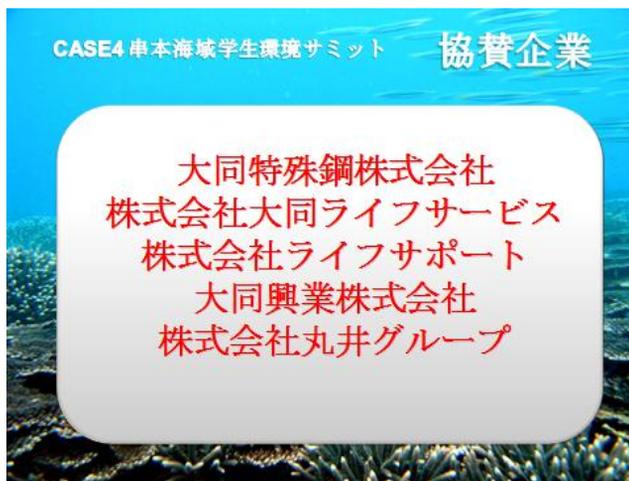
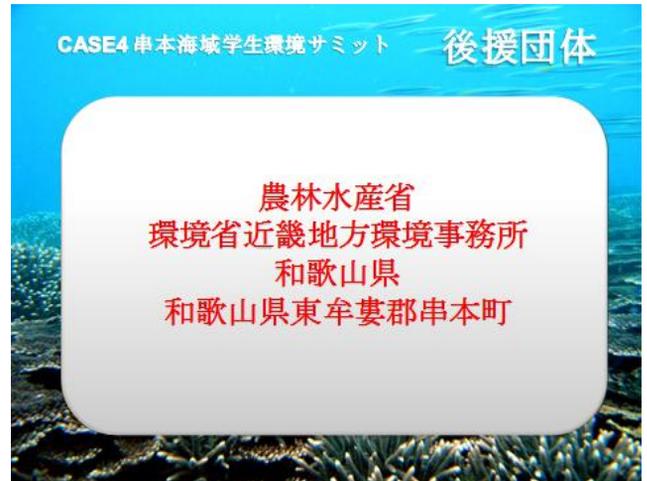
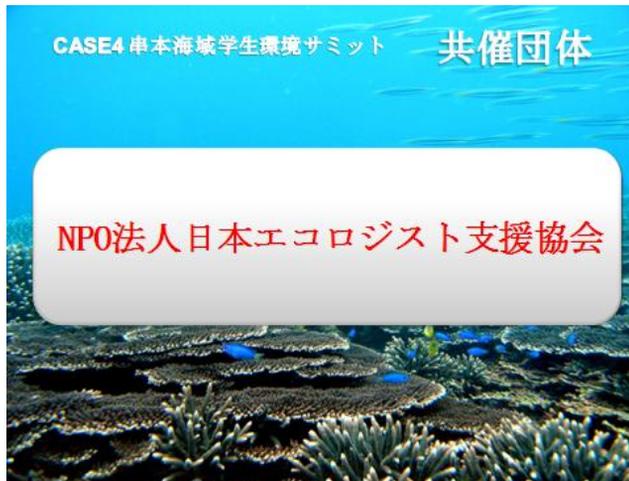
A1タテ(h841 × w594mm)



～サイン掲示結果③～

共催・後援・協賛企業・助成紹介パワーポイント

開会式、プレゼン大会にて紹介



紀伊民報

ニュースサイト AGARA 紀伊民報サイト KiiLife コミュニティサイト みかん 検索ツール KiiSearch

AGARA 紀伊民報

サイト内検索
紀伊民報 学生 環境 検索

串本で9月に学生環境サミット 環境や観光で提案



和歌山県串本町で9月6～12日、「串本海域学生環境サミット」がある。大学生が現地体験学習などを通してラムサール条約湿地に登録されている海域がある同町の良さを認識し、環境保全や観光振興についての提案をする。9月11日にまとめとして、町文化センターで発表会がある。

学生環境サミットは2008年から毎年1回、国内のラムサール条約登録湿地がある地域で開いている。1回目は北海道のクッチャロ湖、2回目は福井県の三方五湖、3回目は名古屋市の藤前干潟で開いた。ことは国連が定めた国際森林年であることから、今回は「学生による森とサンゴの海をつなげる新提案」をテーマに、世界最北のサンゴ群集がある串本の海と山について発表する。

大学生の有志や企業で構成する実行委員会とNPO日本エコロジスト支援協会の共催。現時点で34人が参加する予定になっており、50人を目指して参加者を募っている。

9月6日は開会式や基調講演、交流会がある。7～9日にフィールドワークとして串本海中公園の見学やシュノーケリング、古座川でのカヌー下り、古座川町での里山体験、海岸清掃をする。いずれも地元の団体が協力を。学生は串本町潮岬の潮岬青少年の家に宿泊する。11日に同町串本の町文化センターでプレゼンテーション大会があり、地域住民の参加を募っている。

8月11日、同町役場で学生実行委員会の金杉和也委員長(19)＝法政大学2年＝らが会見した。金杉さんは「外から見た串本の良さを学生が地元の人に伝えられれば、1回だけのイベントに終わらず、サミットをきっかけに継続的な活動が生まれてほしい」と話した。

問い合わせは事務局のNPO日本エコロジスト支援協会(03・6234・4983)へ。

【串本海域学生環境サミットについて説明する学生実行委員長の金杉和也さん(左)ら＝11日、和歌山県串本町役場で】

(2011年08月12日更新)

紀伊民報 2011年8月12日 (webより)

ラジオ
和歌山放送 2011年8月30日



CASE4
串本海域学生環境
サミット
プレゼンテーション大会

全国の学生が集まり
串本町の自然
串本町の魅力
串本町のこれから
学生ならではの発想で考えます。

様々なお話を聞きたいと思いますので、
お時間のある方は是非ご覧下さい。

日時: 2011年9月11日(日) 13:00～
場所: 串本町文化センター

串本町チラシ 2011年9月

大学生が地域活性化の提案 串本町で学生環境サミット 大賞は「環境ドライブスクール」

テーマは「串本の魅力を引き出し、この地に根付く新提案」。全国の大学生有志がラムサール条約に登録された地域に集まり、環境の保全と活用についてのアイデアを出し合うイベント「学生環境サミット」(同実行委員会主催、NPO日本エコロジスト支援協会共催)の発表会が11日、串本町文化センターであった。

全国38大学の36人の学生が6グループに分かれ、串本で1週間過ごした体験を元に地域の活性化のアイデアを提案した。審査員は串本海中公園センター水族館の宇井晋介館長やNPOガイアラインの堀ロー志さんら8人が当たった。

大賞の10万円を獲得したのは「そのまま串本」と名付けたグループによる「串本環境ドライブスクール」だった。「免許をとりたいが、旅行もしたい」という学生がターゲット。串本自動車学校の跡地に活用し、潮見学コースや夜の星空を楽しむ運転実習、食事は地元料理を主に出し、「かつお茶漬(け作り)」なども出す。自然環境を楽しみ、免許も取れるというプランで電気自動車も導入し、エコカー運転体験コースを設けるといふ。

入賞はグループ「CORAL(コーラル)」。地元住民とのふれあひの中で串本の「人の魅力」に触れてもらい、観光に結び付けようというプランで15年をかけて「串本ふれあひ観光案内所」を設立する計画を立てた。

佳作はグループ「新婚さんいらっしゃい」の提案。新婚カップルを串本町に招き、串本の暮らしを体験してもらうことで自然環境のよさや子育て支援を実施している町の施策などを知ってもらい、カップルに移住してもらうのが狙い。

このほかには埋もれた観光資源をクイズ形式にして旅行者に楽しんでもらう「宝探しツアー」などのアイデアもあった。

学生環境サミットはことして4回目。串本での活動は6日からスタートし、串本海中公園センターで施設の見学やシュノーケリングを体験し、同町田並の海と自然の家の学校で貝殻などを使った小物作り、橋杭岩近の海ではシーカヤックも体験した。9日には台風12号の被害にあった古座川町月野瀬、ぼたん荘でボランティア活動もしている。

学生実行委員会の金村和也委員長(19)は「台風の影響で大幅にスケジュールが変更になったが、地元の皆さんの協力和理解を得て開催することができた。活性化へ次のステップを考えたい」と感謝していた。



大学生がアイデアを出し合ったプレゼンテーション(発表)大会=11日、串本町文化センター



大賞を獲得した「串本環境ドライブスクール」



串本のまちづくりについて熱意を語る学生(串本町串本で)

串本海域 環境サミット 学生がまちづくり提案

ユニークな発想次々と

【串本特派員レポート】「串本環境学生環境サミット」(同実行委員会主催、NPO日本エコロジスト支援協会共催)の発表会が11日、串本町串本の町文化センターであり、大学生ら約40人が串本のまちづくりについて提案した。「環境ドライブスクール」は、免許をとりたいが、旅行もしたいという学生がターゲット。串本自動車学校の跡地に活用し、潮見学コースや夜の星空を楽しむ運転実習、食事は地元料理を主に出し、「かつお茶漬(け作り)」なども出す。自然環境を楽しみ、免許も取れるというプランで電気自動車も導入し、エコカー運転体験コースを設けるといふ。

入賞はグループ「CORAL(コーラル)」。地元住民とのふれあひの中で串本の「人の魅力」に触れてもらい、観光に結び付けようというプランで15年をかけて「串本ふれあひ観光案内所」を設立する計画を立てた。

佳作はグループ「新婚さんいらっしゃい」の提案。新婚カップルを串本町に招き、串本の暮らしを体験してもらうことで自然環境のよさや子育て支援を実施している町の施策などを知ってもらい、カップルに移住してもらうのが狙い。

「串本環境学生環境サミット」(同実行委員会主催、NPO日本エコロジスト支援協会共催)の発表会が11日、串本町串本の町文化センターであり、大学生ら約40人が串本のまちづくりについて提案した。「環境ドライブスクール」は、免許をとりたいが、旅行もしたいという学生がターゲット。串本自動車学校の跡地に活用し、潮見学コースや夜の星空を楽しむ運転実習、食事は地元料理を主に出し、「かつお茶漬(け作り)」なども出す。自然環境を楽しみ、免許も取れるというプランで電気自動車も導入し、エコカー運転体験コースを設けるといふ。

～プログラム実施概要～

	9/6(火)	9/7(水)	9/8(木)	9/9(金)	9/10(土)	9/11(日)	9/12(月)			
7:00		起床						7:00		
8:00		朝食						8:00		
9:00		フィールドワーク	ヒアリング/ 現地調査	プレゼン テーション 大会準備	プレゼン テーション 大会準備	解散		9:00		
10:00										10:00
11:00										11:00
12:00	参加者集合				昼食・移動		昼食		12:00	
13:00	開会式/ ガイダンス/ アイス ブレイク		水族館見学/ シュノーケリング/ シーカヤック/ クルージング/ ビーチクラフト/ ビーチクリーニング		台風被害 復旧 ボランティア 活動	プレゼン テーション 大会準備	プレゼン テーション 大会			13:00
14:00										
15:00	ワーク ショップ									
16:00								16:00		
17:00						表彰式/閉会式		17:00		
18:00	交流会	夕食				懇親会		18:00		
19:00		グループ ディスカッション	プレゼンテーション 大会準備					19:00		
20:00									20:00	
21:00								21:00		

～記録写真1～

9月6日13:00～14:00
開会式・ガイダンス

参加者集合



串本町副町長より
ご挨拶を頂きました



NPO法人日本エコロジスト支援協会
よりご挨拶頂きました



学生実行委員長挨拶



学生実行委員の紹介



参加学生も真剣に聞いています

9月6日14:15～16:30
アイスブレイク・ワークショップ

自己紹介 & 他己紹介



アイスブレイクのゲーム
「人間知恵の輪」



初対面の学生同士も
ここで打ち解けることができました



串本町の自然環境に関する
現状や課題についてお話を聞きました



9月6日17:00～20:00
交流会

飯盒炊爨

食材の準備から



全員で協力して作りました



宿泊場のキャンプサイトで
バーベキューをしました



9月7・8日

フィールドワーク 水族館見学・シュノーケリング

昼食は串本町ならではの
トビウオカレー



串本海中公園水族館の
表から裏まで
色々とお説明頂きました



水族館の裏では
ヒトデやナマコを
触ることができました



シュノーケリングでは実際に
サンゴや魚を見ることができました



9月7・8日
フィールドワーク シーカヤック



国の天然記念物「橋杭岩」周辺にて



2人で協力して漕ぎました



乗る前に漕ぎ方を教わります



海上で集合写真



9月7・8日

フィールドワーク クルージング・ビーチクラフト



各自思い思いのものを拾います



海岸に落ちている物だけを使ってクラフトを作成しました



船に乗るにあたっての注意を聞きました



クルージングでは海の流れや台風による影響について聞きました



9月8日 14:00～16:30
フィールドワーク ビーチクリーニング

参加者全員で海岸のごみ拾い



ただ拾うのではなく、何に利用する物がどこから来たのかを考えつつ分類します



終了後は休息を取りつつ
地域の方々とお話しました



4分類20袋以上を拾い集めました

9月9日 9:00～12:00
ヒアリング・現地調査



町の図書館にて参考文献の閲覧



紀伊大島にて魅力資源の発掘

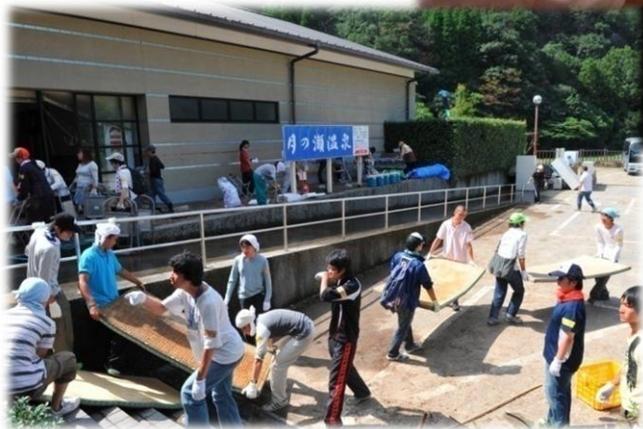
トルコ記念館や灯台などを見て回りました



9月9日 13:00～17:00
台風被害復旧ボランティア活動



台風による被害を受けた場所へ
ボランティア活動



運搬や部屋の掃除など
全員で取り組みました



～記録写真10～

9月9日 19:00～23:00

10日 9:00～23:00

11日 9:00～11:00

プレゼンテーション大会準備

場所:和歌山県立潮岬青少年の家

本格的にまとめ作業



CASEのOBの方からの助言を頂きました



全員が寝る間を惜しんで、
大会に向けて作業しました！



班全員で様々な提案を考えています

9月11日 12:00～13:00
プレゼンテーション大会



1週間のまとめを地域の方々に熱く語る！



劇を交えてのグループもあり
工夫のある発表でした



学生がそれぞれの
熱い思いを伝えました！



9月11日 13:00～14:00
ポスターセッション



プレゼンテーションで
伝えきれなかった事を直接説明！



想い想いのポスターを使って
話しきれなかった想いを伝えました！



様々な質問を受け、学生はもちろん
地域の方々にも刺激になったようです

9月11日14:00～15:00

特別講演

題名:サンゴはなぜ注目されるのか?

講師:野村 恵一 氏 (株式会社串本海中公園センター 副館長)



特別講演

題名:南紀の野生生物と生物多様性

講師:揚妻 直樹 氏

(北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 和歌山研究林 林長)



9月12日 15:00～16:00
表彰式・閉会式



表彰式の様子



サミット全体を通しての講評を頂きました



9月12日 17:00～19:00

懇親会



最後の夜を地域の方々と一緒に楽しみました



CASEのOBも駆けつけてくれ
お話ししました



魚やイカなどの特産物の差し入れを頂きました！
とてもおいしく頂きました！



9月13日 9:30～
解散・集合写真撮影



本州最南端の地での集合写真



有志学生のtwitterによる
串本の魅力発信についての説明



参加者の皆さんからお礼の手紙を頂きました！

～プレゼンテーション概略～

発表趣旨

A	若者によるまちのふれあい観光案内所
	メンバー: 江端一徳、大原寛司、小林由香里、佐間田侑花、樋口貴俊
<p>過疎化・若者の減少、串本が現在抱えるこの問題に対して、若者を定住化させ、若者が持つクリエイティブな力、アクティブさを最大限に生かし、串本への愛を存分に生かした「若者によるまちのふれあい観光案内所」を私達は提案します。</p>	
B	ふるさと串本again!!
	メンバー: 石塚裕樹、川角健太、小林祐佳、高橋佳子
<p>若者が感じた串本。地域の方々にとっての串本。二つの触れ合いから生まれる新たなもの。そのきっかけとしてホームステイを提案。今の串本に溶け込む新たな体験プログラムを通して、人のつながり・新たな可能性を創ります。</p>	
C	串本のすべてはみなさんの笑顔から
	メンバー: 芦田愛子、河野茜、松本雄真、山崎恭輔、横田愛里
<p>串本町を楽しみ、味わい、理解する上で最も心に残るのはみなさんの存在です。みなさんの笑顔を守り、環境を守り、産業を守りながら新たな人々や地域へのアピール活動として、私たちは「串本 環境ドライビングスクール」を提案します。</p>	
D	新婚さんいらっしゃーい
	メンバー: 片山美樹、鳥巢勇二、長嶋順平、藤井崇弘、洞山香織
<p>今、串本町は過疎化・少子高齢化が問題となっています。そこで、新婚さんの受け入れ体制を整えるため、見学ツアーの実施や助成金を導入します。これにより、串本町を守る新しい担い手の定住を狙います。</p>	
E	串本と若者をつなげよう～串本を第二のふるさとに！
	メンバー: 小嶋瞭、佐藤祐代、津久井俊郎、名雪絵美
<p>今回、串本の方々との出会い、現地の若者が少ないという現状を知りました。そこで、地元の方々との外部の若者とのつながりを構築する機会を設け、若者が串本の魅力を知り発信していけるようなシステムを提案します。</p>	
F	学習型宝探しツアー
	メンバー: 伊藤竜太郎、遠藤桂子、坪井亜里沙、吉田翼
<p>串本町の魅力を多くの人に知ってもらうために、クイズに答えながら宝探しをするツアーを提案します。地域の方々との交流・観光・環境学習をすることでゴールへ近づいていくレクリエーションです。この企画を通して串本町の魅力を発信すると同時に環境改善へつなげたいと考えます。</p>	

～プレゼンテーション概略～

ポスターセッション用パネル1

CORALとは?

NPO法人
 年齢層 → 10代後半～30代
 人数 → 数人→数百人
 活動範囲 → 串本町
 拠点 → 串本町観光協会(別館) 憩いの場

経緯
 串本での自然体験学習を体験し、魅力とは「人」であるということを感じ、その考えをもっと広げていきたいと思っ

理念

若者の職を増やすことで、若者の定着に繋がる。地元住民と観光客とを繋げる。

「T」に観光客が見る、体験するということではなく、地元住民とのふれあいという、プラスの要素を持つ観光組織

CORAL長期目標
 串本ふれあい観光案内所

CORAL 2026 未来予想図

収入源

- ① イベント(5000円/回)
- ② 観光客からの寄付(1000円/人)
- ③ 観光客からの寄付(1000円/人)
- ④ 観光客からの寄付(1000円/人)
- ⑤ 観光客からの寄付(1000円/人)
- ⑥ 観光客からの寄付(1000円/人)
- ⑦ 観光客からの寄付(1000円/人)
- ⑧ 観光客からの寄付(1000円/人)
- ⑨ 観光客からの寄付(1000円/人)
- ⑩ 観光客からの寄付(1000円/人)

株へ

A班:若者によるまちのふれあい観光所

ふるさと串本 again!!

「ふるさと」を「ふるさど」として捉え、環境・人・文化・産業を大切にする。環境・人・文化・産業を大切にする。

＜地元＞
 串本の魅力の再発見
 新しい魅力が出来る
 その子の地元へ行ける

＜若者＞
 新たな体験が出来る
 第二の故郷が出来る
 串本に来やすくなる
 (家族がいる)

＜両者＞
 社会性を共にできる
 新しい魅力が出来る
 町内外のつながりが出来る
 新しい家族が出来る
 新たな対象 楽しい
 串本を知る
 絆(再会)

既存	新提案
旧来 ホームステイ	～1週間～
2日泊:体験学習	1日泊:串本を学ぶ
ホテルに宿泊	2-5日泊:体験学習
	6日泊:自由泊
	7日泊:参加者交流会
	朝・夕・夜ミーティング
特設旅行(動物)	自然の生き物
1日泊のホームステイ	プログラムの中で遊べる
	ホームステイ期間が長い

B班:ふるさと串本Again!!

C班:串本のすべては
みなさんの笑顔から

学生

① 跡地も利用できる。
 ② 串本町民の新しい就職先ができる。
 ③ 魚業(第一次産業)を残せる。
 ④ 観光地の活性化
 ⑤ 串本まわり・火祭りの活性化
 ⑥ 経済の活性化
 ⑦ エコカーの導入が可能
 ⑧ 学生が串本を他県に発信していく。

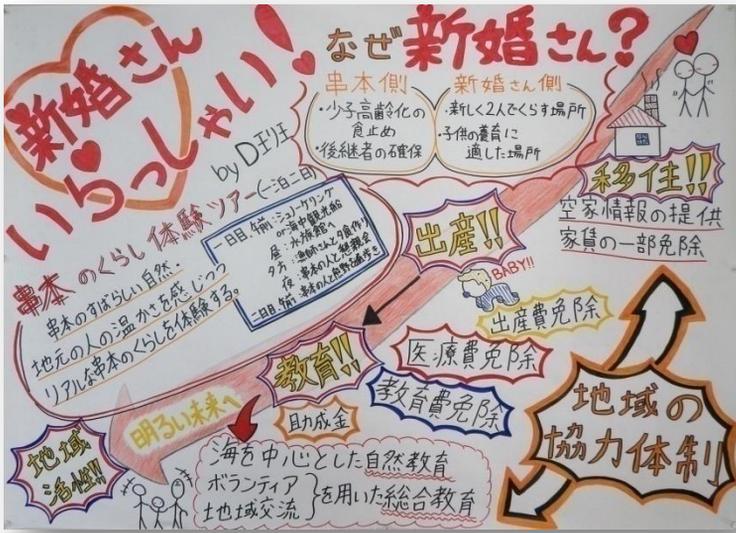
新提案!!
 串本環境ドライビングスクール

① 潮山見学 教習コース有り
 ② 夜の星空実習
 ③ 食事は地元料理を主に。かつお茶漬作り体験(選択あり)
 ④ 民泊体験(選択あり)
 ⑤ 希望者にはアクティビティ有り!!
 ⑥ ボランティア含有コース有り!
 ⑦ エコカー導入!!
 運転体験コース有り!!

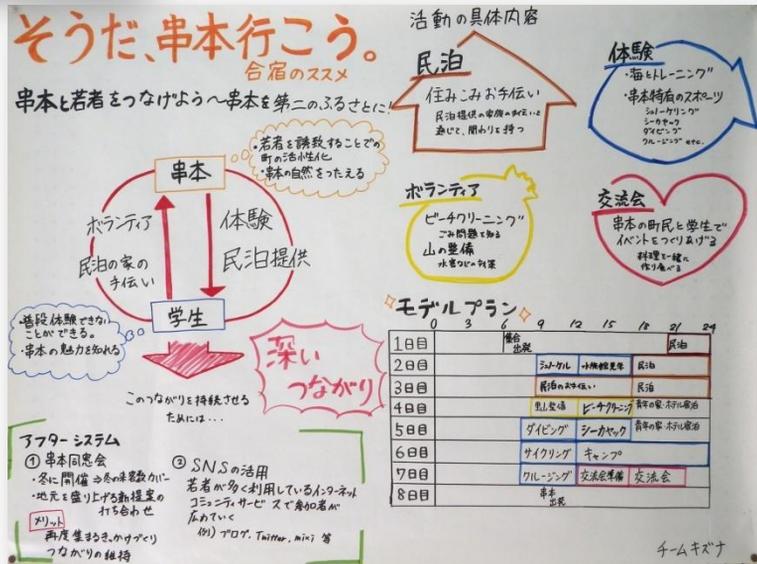
免許を取るには他県に行かなくてはならない。若い世代の職場が不足している。この企画はこれらの問題に挑戦します。

串本

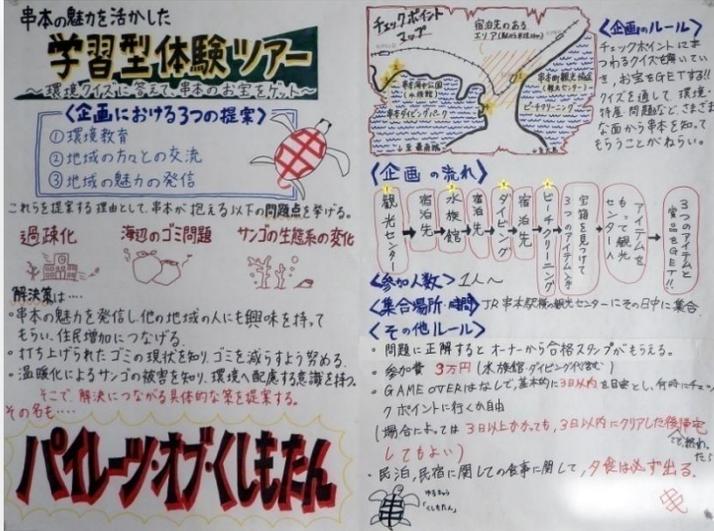
ポスターセッション用パネル2



D班:新婚さん
いらっしゃーい



E班:串本と若者を
つなげよう
～串本を第二のふるさとに!



F班:学習型
宝探しツアー

プレゼン案の実現に向けて



サミット終了後、有志の参加者を中心に今後の串本町での活動を検討中。



法政大学を中心に週1回程の定例会議。様々な大学で行っている。

左上 串本町での協力者との会合
右下 東京農業大学での会議風景

CASE5候補地視察



10月8日～12日にかけて
宍道湖(島根県)と秋吉台
地下水系(山口県)への視察
を行いました。

宍道湖付近 しじみ館にて

～会計報告～

CASE4 串本海域学生環境サミット 決算書

作成:2012年3月31日

(収入の部)

(単位:円)

項目	予算額	決算額	摘要
1. 協賛金	50,000	50,000	
	(株)丸井グループ		
	大同興業(株)	50,000	
	(株)大同ライフサービス	50,000	
	(株)大同ライフサービス	100,000	
	合計	¥50,000	¥250,000
2. 助成金	2,000,000	2,000,000	日本財団より
	海のボランティア活動助成		
3. 個人支援金	245,000	0	
	実行委員負担金		
4. 参加費※	1,000,000	637,000	参加費(25000円×25人+途中参加者12000円×1人)
	宿泊費・食費など		
	交通費(東京—串本間)	427,700	
5. その他助成金	0	0	
合計	¥3,295,000	¥3,314,700	

(支出の部)

(単位:円)

項目	予算額	決算額	摘要	
1. 準備活動費	20,000	5,000	製作代よりも出力費、発送代に比重大。	
	企画書制作費			
	広報活動費(交通費、施設利用費など)	130,000	主に施設利用費	
	現地会議費(交通費、宿泊費など)	200,000	5回×2泊/回、車で移動を想定	
	合計	¥350,000	564,980	
2. 制作物関係費	26,000	57,120	サーバーおよびドメイン更新料含む	
	HP制作費			
	名刺制作関係費	25,000	38,955	
	ポスター制作関係費	50,000	33,605	参加者募集・開催告知用
	チラシ制作関係費	50,000	14,832	参加者募集・開催告知用
	のぼり・看板等制作関係費	129,000	138,095	
	しおり等制作費	20,000	16,351	出力費、発送代など
	合計	¥300,000	298,958	
3. プレゼン関係費	100,000	100,000		
	賞金(大賞×1組)			
	賞品(佳作×1組)	0	5,000	
	賞品(入賞×1組)	0	5,000	
	記念品(賞状ほか)	30,000	7,638	賞状用紙代
	巨大目録制作・出力	5,000	5,000	
	来賓・来場者用資料	10,000	12,232	主にパネル代
	施設利用費	0	39,380	清掃費含む
	合計	¥145,000	174,250	
4. 宿泊費および食費 (会期中のみ)	450,000	276,920	参加者35名	
	宿泊費			
	食費(3食)	500,000	150,540	
	協力関係者 宿泊費	37,000	37,400	来賓宿泊費
	合計	¥987,000	464,860	
5. エコツアー参加費 (会期中のみ)	750,000	438,630		
	エコツアー参加費			
	合計	¥750,000	438,630	
6. 車両関係費 (会期中のみ)	350,000	622,890	交通費(東京—串本間)含む	
	バスレンタル代			
	ドライバー人件費	0	4,000	寸志として
	車燃料費	100,000	54,775	高速道路料金含む
	レンタカー代	75,000	138,540	2台×1週間
	合計	¥525,000	820,205	
7. 報告活動費	5,000	2,800	出力費、発送代など	
	報告書制作関係費			
	報告活動費	30,000	63,000	交通費・イベント参加費など
	合計	¥35,000	65,800	
8. 事務局活動費	50,000	41,376	現地までの交通費	
	活動支援費			
	合計	¥50,000	41,376	
9. その他雑費	13,000	22,200		
	旅行保険(参加者用)			
	来賓用 交通費・宿泊費	70,000	0	協力者宿泊費に含む
	備品・消耗品等購入費	40,000	28,642	
	次回候補地視察	30,000	164,181	
	RCディレクション費	0	230,618	
	合計	¥153,000	445,641	
合計	¥3,295,000	3,314,700		



作成:CASE4 串本海域学生環境サミット実行委員会